

選手の発育・発達段階に合わせた指導(1)
～アミザージの選手育成の考え方・指導方針～

☆ 幼稚園・1年生

コーチと子ども一人一人の人間関係を深め、一人一人の個性・能力を伸ばすことを目標に指導します。ミニゲームを見ていただければわかると思いますが、この年代の子どもに友達と協力するという要求は無理です。自分以外はすべて敵で、自分がボールを奪い、ゴールすることしか考えていません。これが自然であり、だからこそ一人一人の能力を最大限に引き出せると考えています。

★2～4年生

子供同士の人間関係を構築するスタートと考えています。日常生活での友達関係とは違います。厳しい状況下で、試合で闘うために友達どう協力するかを要求します。どうすることが、互いを理解し、力をあわせることを考えさせます。この年代は、練習中のミニゲームでも勝つことにこだわる年代です。負けた責任は誰かもわかりません。まじめにしていない、頑張らないということを見抜くことができます。そういう子どもとどう接していくかということも大きな課題です。自分がその子とどう関わればいいのかを考えさせたいと思います。子どもの心の発達を考えると、二人までかなと思います。サッカーでいうと、2対1・2対2という状況を、子どもたちでどう打開するか。グループ戦術の考え方の基礎を作ります。

★5～6年

高学年になると、同じ学年の子どもの人間関係だけでなく、下の学年の子どもたちのことも考えさせるようになります。3.4年生の子どもの面倒を見る機会を作ることもその一つです。11人全員で協力するために、どのような考え方を持つ必要があるかを考えさせることや、自分の考えを主張するとき・友達の考えを優先させるときなど、人の心、気持ちを考えるということは、人間としての生き方だけではなく、サッカー選手にとっても大切な部分です。また、ゴールを許す・試合に負けるという事実を子どもたちがどのように話し合い、解決するかということは、人間関係を構築する上では、非常にいい材料となります。負けたことで学ぶことができる子どもたちは、大きく成長します。この年代の子どもは、大人への入り口。サッカー選手としての運動能力を高める追求だけでなく、人間としてどう育てるかということの追求がなければいい選手には育ちません。サッカー選手としての能力と人間として心の育成が両立しなければ、試合の結果も残せません。

我々アミザージスタッフは指導者として「自ら観て、考えて、判断できるクリエイティブな選手」の育成を目指します。それを目指すからこそ、サッカーのやり方だけを教え込まないのです。人間には心があり、その心の状況が子どもたちのプレーを大きく左右することを経験の中で知っています。運動能力が高くて、心(人間力)が育っていないければ、その能力も発揮できません。心だけが育っても、サッカーの技術が低くては、試合で活躍することができません。年代年代にあったサッカーの技術の習得。年代にあった運動能力の育成。そして、年齢にあった心の発達。これらのバランスが取れなければ、いい選手とはいえないでしょう。我々も子どもたちの発育・発達段階を考慮したうえで子どもたち一人一人を伸ばしていければと思っています。